

上尾市議会議員  
あさのめ義英  
議会報告

# バカヤロー Don't Mind!

No.30

【1995年11月】

〒362上尾市原市3669-1  
☎723-0655

## 挑戦する政治が 新しい時代をつくる。



真実から目をそむけて、  
子らに本当のことが語れるか。  
未来を信じないで、  
子らに新しい時代を語れるか。  
理想をもたないで、  
子らに熱い夢抱けと語れるか。  
堂々と生きないで、  
予らに誇りをもてと言えるか。  
スクラムの外にいて、  
子らに仲良くしろと言えるか。  
たたかいから逃げて、  
子らに勇気ふるえと言えるか。



### 市議会改革に大ナタをふるった12年間。

### 新時代の上尾のため、信念もって力強く前進。

▼昭和58年冬、少年期からの夢だった市議選にチャレンジ。地盤と資力の無い中で、若者たちを総動員。  
「若い力での政治改革」を訴え、次第に支持者を拡大。史上最年少の25歳で初当選。  
▼当選3回。市議会登壇発言回数100を超える。議員定数の削減を議運委員長時代に断行するなど、上尾市の政治状況の潮流に、常に大きな変化、新しい方向をつくりだす。

▼平成7年冬、  
▽4に挑む。

あさのめ  
浅野 目義英  
よしひで



# 浅野目くん、さらにさらに奮起すべし

声楽家 友 清 和 親

意思の強そうな目をしているなと、会って最初に思いました。

私は、知人から浅野目くんの話を聞いていたのでした。

最初は「とんでもなく若い候補者が選挙に出ている」という話でした。

次には「若者達を中心としたグループが彼を支援し、しかも彼は演説がうまく、当選するかもしれない」というものでした。

三度目は「大人たちも応援し始め、立派に当選したよ」というものでした。

元気のよい若さに加えて、地元上尾高校出身を旗印にして、保守系（新自由クラブ）から、颶夷と立候補。「若い力での政治改革」を仲間たちとさんざんに訴え続け、多分落選するだろうとの声をものともせずに当選を勝ち取りました。

彼の当選は、当時、上尾市の政治状況の潮流に大きな変化、新しい方向をつくり出しました。今まで、誰も成し遂げられなかつた二五歳で初当選。また、農業や会社役員などの力ある人たちが議会を支配しがちだった風土で、失礼ながら、決してお金持ちは言えない研究員と教員の子が、戦い勝利した歴史もつくり出しました。

東京都出身。家庭的に不幸で一歳になるとすぐに、父君の郷里の山形県米沢市に預けられました。彼の一般質問の中で、弱者へ共感、全ての人の幸せを願う内容が多いのは、このためかもしれません。

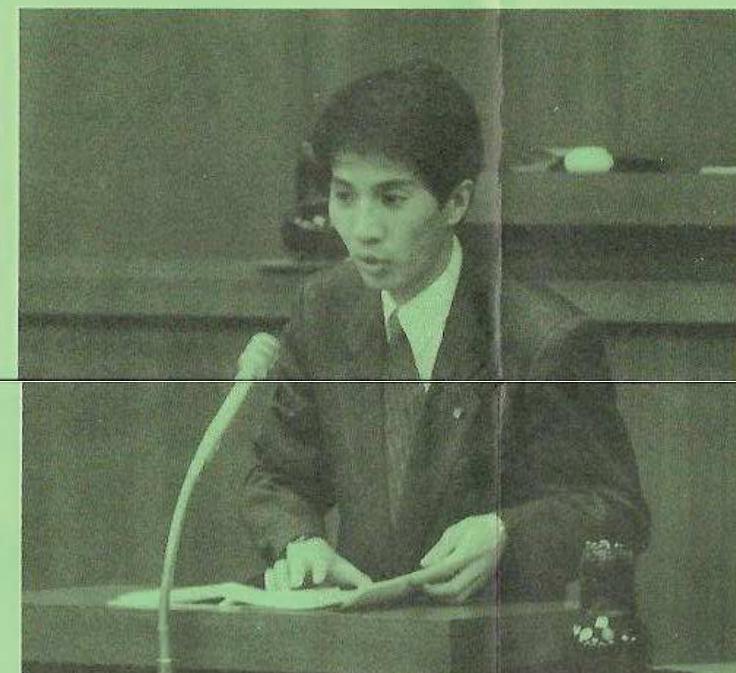
小学校時代も中学校時代の教師も「成績が優れていたことに加え、的確な発言力と抜群の正義感は、際立っていたことが記憶に残っている」と言います。そして、友人たちからは、「自分たちの仲間が不当に責められていたりするとそれが爆発していた」とも

聞いています。

いつもにこにこ顔で底抜けに明るいやんちゃな少年が成長し、友をつくり、書を読み社会を見つめ、地方議会の復権、活性化のための行動を押さえ切れず、市議会議員選挙にチャレンジしたのは、僅か二五歳。最年少のデビューでした。

彼の本「いちばん元気！」の中の十二年間の堂々たる活動を読まれると、彼の成長期がどんなものであつたか、彼の情熱がいかにただならぬものかを、読む方は感知されることと思われます。また、上尾市議会や上尾市役所内外に対しても、どんなにか好ましい刺激を与えたであろうかも予想されます。

事実、関係者の多くは「若いのにいささかの危なげもなく、比類なき情熱と、独特の迫力で、確実にこの上尾市を変えてきた」と言います。確かにことと思われます。果敢で意欲に溢れ、挫折しそうになつても勇気を失わずどんな困難な問題にでもぶつかっていくた活動の数々を上尾市民の多くは知っています。どんな職業にでも必要ですが、特に政治家には、この勇気と情熱を持ち続けることが必要であり、彼はこの上尾にとつて貴重な議員です。



権力をを持つ議員が自らの地位に驕らず、「批判を受けても市民のためならやり抜く」と言って議運委員長時代に議員の数を減らすのを断行したことは、大変立派なことだと思います。今まで通り前進と熟成を繰り返し、上尾を元気な街にするため、さらに奮起してください。これから、どれほど大きな飛躍をするか。みんなが、力一杯手を振りながら、あなたをみています。